

えほん『クマとオオカミ』 ダニエル・サルミエリ/作 やまぐちふみお/訳 評論社



ともだちになるきっかけは…?

雪がふる夜の森で、クマとオオカミがはじめて出会いました。2頭とも、さん歩に来たということで、いっしょに歩いてみることにしました。雪で真っ白な森の中で、目と耳と鼻をつかって、しぜんの美しさをいっしょに感じる事ができたようです。しんしんとふる雪を見つめ、木の皮のしめったにおいをかいて、雪のかけらがまい落ちるかすかな音を聞きました。

しかし、楽しい時間をすごした後、2頭はそれぞれの家族の元に帰らないといけません。 「また会いたいな。」と、思った、クマとオオカミは、ふたたび会うことができるでしょうか？ 人がなかよくなるきっかけも、同じことをいっしょに楽しむことなのかもしれませんね。

ものがたり『ゆきひらの話』 はなし 安房直子/作 田中清代/絵 偕成社

なつかしくて、あたたかい

みなさんは、ゆきひらを知っていますか？表紙のような、土で作られた茶色いおなべで、丸いふたと、取っ手と、口がついています。そして、おかゆやスープを作るのにべんりです。

そんなゆきひらが、ある家の台所の戸だなにしまわれていました。その家に住むおばあさんは、かぜを引いて、ねむっていました。

すると、台所から、コトコトと音がしました。おばあさんが、見に行くと、ゆきひらが、「おひさしぶりでした。」と、しゃべり出したのです。おばあさんは、ゆきひらを見て、昔のことを思い出しました。子どものころに、おばあさんのお母さんに、ゆきひらで、だいこんや、おいもを、食べさせてもらっていたのです。

なつかしい気持ちになったおばあさんは、ゆきひらに、りんごのあまにを作ってもらうことにしました。おいしそうなりんごのあまにの絵から、あまいかおりがとどいてきそうで、きっと食べたくなりますよ。

おばあさんが、その日に見たゆめも、なつかしいゆめだったようです…。



えほん『てぶくろがいっぱい』

フローレンス・スロボドキン/文 ルイス・スロボドキン/絵 三原泉/訳 偕成社



心がポカポカになるえほんです

ふたごのネッドとドニーは、冬になると、赤いてぶくろをつけて出かれます。ある日、ドニーが、てぶくろをかた方なくしてしまいました。

すると、ふたごがてぶくろをなくしたといううわさが広まって、町の人が赤いてぶくろを見つけると、ふたごの家にとどけてくれました。次から次へと、てぶくろがとどけられ、なんと、10こも集まってしまいました。

さあ、どうしましょう？そのとき、ネッドが、いいアイデアを思いついたようです。 おもしろくて、あたたかくて、冬に読むのにぴったりなえほんです。

ものがたり『火曜日のごちそうはヒキガエル』

ヒキガエルとんだ大冒険シリーズ1巻

ラッセル・エリクソン/作 ローレンズ・ディ・フィオリ/画 佐藤涼子/訳 評論社



ハラハラドキドキ…、でも、やさしいものがたり

ヒキガエルの兄弟のウォートンとモートン。ウォートンは、料理を作るのが大すきなモートンのおかしを遠くに住むおばさんにとどけると言います。しかし、きせつは冬で、外は雪がつもっています。そこで、たくさん服を着て、スキーをはいて、出かけることにしました。

しかし、ウォートンは、とどけに行くとちゅうで、おそろしいミミズクにつかまってしまいます。ミミズクは、6日後の火曜日のたん生日に、ごちそうとして、ウォートンを食べるというのです。ウォートンは、何とか食べられないようにしようと、部屋をきれいにしたり、いっしょにお茶をしたりしました。すると、だんだんなかよくなっていきました。

ミミズクは、1日すぎるときに、表紙の絵のように、カレンダーに×じるしをつけていき、とうとう、たん生日当日になりました。当日になって、思ってもみないできごとがおきるのです…。

はたして、ウォートンは、ミミズクに食べられてしまうのでしょうか？